

55歳からでも失敗しない  
投資のルール

株式会社バリューアドバイザーズ  
五十嵐修平  
SHUHEI IGARASHI

はじめまして。株式会社バリエューアドバイザーズ代表の五十嵐修平です。この度は本書を手にとってくださり、誠にありがとうございます。

私は東証一部上場の証券会社で資産運用コンサルティングに従事した後、不動産会社などの経営参画を経て2013年に当社を立ち上げ、「独立」「中立」な立場から、これまでにおよそ3000人の資産形成・資産運用のお手伝いをしてきました。

本書では、主に50代以上のミドル・シニアの方に向けて、投資や運用の考え方や具体的なテクニックをお伝えしていきます。

なぜ50代以上の方に絞ったかという点、お客様と接するなかで近い将来に退職という人生の大きなイベントを迎える方や退職金を受け取った方の多くが、どう運用したら良いかわからず、セカンドライフに不安を感じていることに気付いたからです。

「誰に相談していいかわからない」「本当に頼れる人がいない」「個人での大きな額の運用は怖い」といった理由で投資への一歩を踏み出せなかったり、「証券会社や銀行は信用できるのか」「かつて投資で大きく損をした」と躊躇している人もいます。

この本を手にとってくださったみなさんも、お金について何らかの悩みがあるのだと思います。そんな方たちの悩みに対して、私は「IFA (Independent Financial Adviser : 独立系ファイナンシャルアドバイザー)」として証券会社や銀行、保険会社など既存の金融機関とは異なるアプローチで解決に導いてきました。

IFAとは、金融の先進国である欧米を中心に発達した制度で、特定の金融機関から独立して、金融商品をアドバイザーできる専門家のことです。証券会社や銀行に属していないため、中立的な存在として、幅広い選択肢から、最良の提案ができるのです。

国民の間で資産運用が定着している米国では、「人生で成功するには、医師、弁護士、ファイナンシャルアドバイザーの3人の専門家が必要」といわれるほどで、その数は12万人を超えています。「身近なお金の専門家」として知られ、頼られる存在です。日本では欧米ほど広く知られてはいませんが、ここ数年で登録者は増えていて、2020年12月時点で約4200名。内閣総理大臣の登録を受けた資産運用のプロフェッショナルとして存在感を高めています。中立的な立場のお金の専門家というFP (ファイナンシャルプランナー) を思い浮かべる方もいるでしょうが、FPが具

体的な金融商品を推奨できないのに対して、IFAはさらに踏み込み、具体的な商品・サービスまで提案することができます。FPは家計の改善などに強く、IFAは資産運用に関して強いというように、それぞれ専門分野が違うのです。

## 投資に成功する人・ 失敗する人がいるのはなぜ？

そもそも、なぜ投資に成功する人とそうでない人にわかれるのでしょうか。

証券会社時代を含めて多くの方と接してきた私から見ても、失敗する人には共通点があります。それは資産運用の目的が不明確で、証券会社や銀行など金融機関の営業担当者に言われるがまま、金融商品を売買していることです。医者から処方された薬を疑う患者がいないように、金融機関が勧める商品に間違いはないと思うようですが、これには注意が必要です。

確かに、彼らは金融機関に勤めているため、みなさんよりは金融商品に詳しく、これこそFPのような資格も持っているかもしれないかもしれません。

ですが、その立場は「営業担当」であり、「お客様視点に立ったアドバイザー」では

ないケースが多いのです。詳しくは第1章で解説しますが、組織の一員ですから会社の方針に従わざるを得ませんし、売上目標のノルマもあります。そのため必ずしもお客様の最善を考えている、とは言いがたい現状があります。むしろ、金融に詳しいという自分の立場を利用し、「変な商品を勧めるはずがない」といったお客様のバイアスを知ったうえで、金融機関都合の商品をプッシュすることもあるのです。

もちろん営利企業なので、会社を存続させるため、そしてお客様を長くお守りするために、売上を上げることは必要になります。私の考えでは、あくまで売上はお客様に貢献した対価としていただくものです。お客様から感謝をもらった証として売上に寄与するので、当社では売上のことを「感謝値」と呼んでいます。

既存の金融機関は自社の売上が最優先になる傾向があるので、このように顧客本位ではない提案が行われているのではないのでしょうか。

つまり、さまざまな要因がありますが、多くの方が失敗してしまう一番の原因は「正しい運用が行われていない」ことなのです。

一方、投資で成功する人には、2つのパターンがあります。1つは、徹底的に時間やお金をかけて勉強をしているケースです。ただ、なかなか一般の方が多くの時間や

お金を運用の勉強に費やすことはできないのではないのでしょうか。なかには私の友人でもあり、楽天証券で人気コラムを多数執筆している税理士兼投資家の足立武志先生が開く塾に通い、しっかりと勉強され、個別株の売買で成果を出されている方も、もちろんいます。足立先生の著作『株を買うなら最低限知っておきたいファンダメンタル投資の教科書』（ダイヤモンド社）は12万部を超えベストセラーになっています。ただ、1人では相場の急変時などにルールを厳格に守っていくのは難しいので、真剣に投資と向き合うことのできる人や、リスクを承知で大きな利益を狙っていきたい人向けの運用方法と言えるでしょう。

人生にはお金よりも大切なことが、たくさんあります。例えば、家族や友人との時間、そして仕事です。人生の時間は有限ですから、優先順位を付けていった方がいいでしょう。投資が趣味で勉強の時間が確保できるならまだしも、投資は何となく必要だと思っているが、時間をほかのことに使いたいという方も多いのではないのでしょうか。

成功者のもう1つのパターンは、プロのアドバイザーに頼っているケースです。彼らは、投資のルールや原則を理解したうえで、金融の専門家とチームを組み、運用を

進めていきます。そして、大切な時間を投資の勉強ではなく、本業や趣味、家族との時間など人生を有意義にするために活用されています。運用に時間を使うのは年に数回ある、アドバイザーとの打ち合わせの時だけです。

相談する相手も、先述のような特定の金融機関ではなく、我々のような独立・中立性のあるアドバイザーを選択していることも特徴です。いずれの場合も成功する人は「効果的な運用を行っていること」が共通点です。

冒頭で少し触れましたが、IFAは特定の金融機関に所属せず独立した立場です。独立した立場なので、会社都合ではなく、多くの選択肢のなかからお客様に合った商品をご提案することが可能です。

2、3年で転勤や異動することが多い金融機関では、在籍中にいかに売上をあげたかが評価の大部分を占めるため、短期的視点かつ、自社の利益を優先してしまう傾向があります。一方、基本的に転勤という概念がないIFAは、お客様を生涯にわたってサポートするため、長期的な視点から保有すべき商品を選定することができます。

つまり、「金融機関の代理人」ではなく「お客様の代理人」として接するため、限り

なくニーズに沿った提案ができるのです。こういったIFAの良さをいち早く知った方たちは、生涯のパートナーとして、我々のような存在を受け入れています。また、自分の判断で退職金などを運用したものの全くうまくいかず、失敗した後には相談に来られる方を何人も見てきました。独学で効果的ではない投資方法を進めてしまうのはとても危険です。ゴルフも我流では間違ったフォームが癖になることがあります。しかし、しっかりとコーチをつけてレッスンを受ければ正しいフォームになっていきますよね？

IFAとタッグを組み適切なアドバイスを受けることで、みなさんのお金に対する知識も正しい方法で取得することが可能です。これにより、投資に対して適切な判断が下せるようになります。

本書ではIFAの視点から、みなさんを担当したような形で事例を説明しながら、あなたに合った資産運用の方法をお伝えしていきます。「正しい運用の方法」を学び、投資が素晴らしいものだと感じてもらえれば幸いです。

# 投資はギャンブルではない

投資と聞くと、「こわい」「あぶない」「ギャンブル」とネガティブな印象を抱く方が少なくありません。

FX（外国為替証拠金取引）、相場の下落局面でも利益を狙うことができる株の信用取引など、ギャンブル性の高い投資商品のイメージが先行しているのでしょう。

特にFXをはじめとする一部の金融商品は、「ゼロサムゲーム」であるのも問題です。

ゼロサムゲームとは、ゲーム理論の1つで、参加者の利益と損失の総和（サム）が「0（ゼロ）」になるゲームのことです。ゼロサムゲームでは利益を得る人がいれば、誰かは必ず損をしてしまいます。例えば、FXでは、円と米ドルのように取引を行う組み合わせを通貨ペアと呼びますが、ある通貨ペアを買った人が利益を得ているな

ら、その相手として売った人は、その分を損していることとなります。少なくとも、50代以上の方がセカンドライフの資金をつくるのに活用するべきものではないと考えられています。

これに対して、株の現物取引は「ノンゼロサムゲーム」です。実体を伴う投資で、投資先の企業が成長して総資産額が大きくなり株価も上昇すると、その銘柄を買った投資家すべてが勝者となります。その後、利益確定のために売ったとしても、企業が発展さえしていれば、その後に買った人だって儲かります。つまり、企業価値が上がっている限りプラスサムになるのが株式投資であり、それは投資信託でも同様です。投資をギャンブルにしないためには、「ノンゼロサムゲーム」で行うことがまず重要です。

ここで投資に関する2つの考え方を紹介しておきましょう。

投資戦略は、「サテライト投資」と「コア投資」に分けることができます。

## サテライト投資

株式市場などマーケットの動きに合わせて、価格が上がりそうな商品を探し、多少

のリスクを取ってリターンを狙う戦略です。中長期というよりは短期の値動きを参考に、相場観（投資タイミング）で運用します。変動する相場を背景に投資でダイナミックさを味わうことはできませんが、運の要素も大きく、値動きによっては悲観と楽観を繰り返すので、長く続けるには精神的なタフさが求められるでしょう。リスクを承知のうえご自身で売買を楽しんだり、営業担当者が「これは今買い時です」とパンフレットを持ってくるような投資方法です。

簡単に言うと、サテライト投資は

個別株やFX、株の信用取引など、売ったり買ったりを繰り返す投資を指します。手数料収入が欲しい金融機関にとって、お勧めしたい手法と言えるでしょう。相場観で運用するので勝つ時は大きく儲けますが、負ける時は損も大きくなります。自分の資金をそれなりのリスクにさらすので、あくまでも売買を楽しむという感覚で臨むべきものでしょう。この手法で長期的に資産を形成しようというのは間違いです。ましてや、50代以降の方にとってはなるべく減らしたくない、これからの人生に本当に必要な資金です。そのため、サテライト投資に資金を集中させるのはお勧めできません。

## コア投資

「セカンドライフの資金を準備したい」などの目的・目標を定め、最低5年以上の中長期の視点に立った安定的な資産運用の戦略です。短期の値動きではなく時間をかけて企業収益の成長（経済成長）に乗り、利子や配当の積み上げで資産を増やしていくので、相場観による運用とは一線を画します。

だからこそ、日々の値動きを気にする必要がありません。目的・目標に達するため商品を選び資産運用するのが基本的な流れです。運や勘ではなく理論（仕組み）

- ◎短期の考え方（～5年）
- ◎「予想・賭け」という考え方
- ◎上がりそうな商品を探す
- ◎相場観（投資タイミング）の運用
- ◎悲観 ↔ 楽観の繰り返し
- ◎難しい？悩む？続かない？

- ◎中、長期の考え方（最低5年～）
- ◎企業収益の成長（経済成長）
- ◎利子・配当収入の積み上げ
- ◎複利 or 単利の考え方
- ◎理論（仕組み）の運用
- ◎簡単、悩まない、続けられる



証券会社や銀行の  
セールスを受けたり  
ご自身で売買を  
楽しむような方法



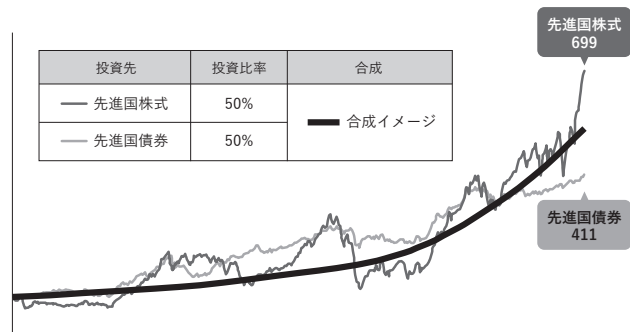
目的と目標を  
見据えた  
計画的な方法

サテライト投資とコア投資の違い

の運用なので、長続きしやすいでしょう。

その際に用いるのは長期的な成長が見込める株式や、株式よりもリターンは少ないものの一定の金利収入が期待できる債券、これらを対象として1つの商品で分散投資ができる投資信託です。複数の資産を組み合わせる手法を「ポートフォリオを組む」と言います。

わかりやすいように下の図で説明します。株式の値動きは上下の動きが激しく、債券は安定しているがリターンが少ないという特徴があります。



※期間は1989年12月末～2021年5月末  
 ※先進国株式はMSCIワールド・インデックス(税引後配当再投資)、先進国債券はブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合債券インデックス、いずれも円ベース。  
 出所：Bloomberg、リフィニティブのデータをもとにキャピタル・グループが作成

株式と債券の値動き

しかし、半分ずつ持った場合、つまり真ん中の太い矢印の動きを見ると、株よりも安定していて、債券よりもリターンが得られる結果になっています。このような運用をするのが鉄則なのです。

### 世界の超富裕層も実践している「コア投資」

11歳から株式投資をはじめ「投資の神様」と言われているウォーレン・バフェット氏は、アマゾン創始者のジェフ・ベゾス氏との対談の際、「なぜみんなあなたの投資戦略を真似ないのか」と問われました。その問いに対し、バフェット氏は「ゆっくり金持ちになりたい人なんていないよ」と答えました。つまり、世界で最も成功している投資家のバフェット氏もまたコア投資で資産を増やしたのです。

例えば、株式単独で運用するのではなく債券も加えることで、リターンは少なくなりますがリスクを抑えた運用が実現します。これがコア投資の考え方であり、50代以上の「守りながらも成長させたい資産」を多く持つ人にとっても、ストレスなく続けられる手段になると考えています。



# 投資がギャンブルになるのは 「サテライト投資」

株式投資がギャンブルに近くなるのは、短期的な値動きを追うサテライト投資を行なっている場合です。もちろん、相場についてしっかり学び、ルールを徹底すればリスクを抑えることはできますが、株式は企業業績や国の景気などにより短期的に上下に振れることがあり、それを投資家が完全に予見したり、コントロールすることは不可能です。だからこそ、大きく勝つこともあれば、反対に負けることもあります。これだと、ギャンブル的な側面が強くなってしまいます。

結局のところ、売上を上げるためのセールスに使われたり、自分自身で売買を楽しむサテライト投資は、短期的な相場の上げ下げを予想することで利益を上げる、マーケットベースの資産運用です。運良く予想が当たれば利益を得られますが、そうでな

いと気持ちちは乱れ、悲観と楽観を繰り返すだけです。そのストレスによって不安になり、長続きするのは難しいと言えるでしょう。もし、マーケットベースの投資で儲けられるのなら、証券会社の営業担当者は自分の資産で実践しているはずで

ここ数年はビットコインなど暗号資産の取引で億単位の資産を稼いだ「億り人」が話題になりました。個別株やFXでそれだけの資産を築いた敏腕トレーダーもいます。メディアのインタビューでは、自分なりの相場観やテクニクを披露していますが、果たしてどれだけの人が再現できるでしょうか。短期で価格が上下するような銘柄を対象にした投資であることが多く、正直なところマネできない手法であることがほとんどです。本気で時間をかけて学び、厳格なルールをどんな状況でも守り続けられた場合に成功することもありますが、多くの方には難しいですし、そこまで時間をかけられない方も多いのではないのでしょうか。

運の要素も多分にあり、万人には通用しません。ただ、サテライト投資が一概に良くないという話ではなく、保有資産全体のバランスが重要なのです。サテライト投資は資産の一部で行うのは問題ありませんが、本気で資産を増やすためにはコア投資を主軸に置いた資産運用がお勧めです。

# 50歳を超えたら「コア投資」がお勧め

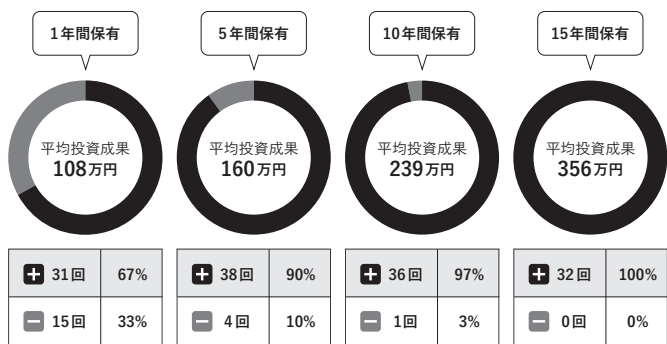
一方で、中・長期で取り組むことでリスクを極力排除し、安定運用を目指すコア投資は、ギャンブルではありません。ライフイベントなどをもとに資産運用の目的を確認し、それを達成するために必要なリターンを逆算したうえで最適な投資をする「ゴール（目的）ベース」のコア投資を実践するのが、ミドル世代以上には向いています。中・長期視点に立ち、企業収益の成長に乗るのがポイントで、利子や配当の積み上げ、複利運用で「お金がお金を生む」状態をつくるのです。

ある全世界株式に投資する投資信託を例に見てみましょう。1年間で運用を止めまうと、33%の割合でマイナスになりますが、5年で保有するとその可能性は10%まで減り、10年保有だと3%（リーマンショックの1回のみ）、15年持ち続けるとマ

イナスになる可能性はゼロになることが、過去のデータからわかっています。

過去の事例から考えると10年間保有を続けていたら、マイナスになる可能性は非常に低いと言えるでしょう。そして、先ほど述べたように株式と債券を合わせた場合、利益は減りますがトータル値動きが安定するので、通常の相場でしたら5年程度運用を続ければマイナスになる可能性は非常に低くなっていきます。

まず、株は長期で見ると世界経済の利益（付加価値の合計値）の上昇



※1973年の年末を起点に2019年末までを試算したもので、それぞれ年初から所定の年数経過後の年末までのリターンを集計しています。  
※購入時手数料3%相当、信託報酬等の費用相当（年率1.72%）を控除しています。ただし、税金は考慮していません。

出所：キャピタル・グループ

15年保有するとマイナスになる可能性はゼロに

に合わせて、上がり続けているということを理解することが大切です。

株式投資の先には実体経済があります。例えば、日本で最も時価総額が高い会社であるトヨタ自動車の株を買った場合、トヨタの株主、つまりオーナーになれるのです。トヨタの社員が日々一生懸命に働いてくれて、利益を生み出し、その生まれた利益から配当金が払い出されるのです。または、iPhoneをお使いの方も多いと思いますが、アップルの株式を買えばアップルのオーナーになり、アップルから配当金も受け取れます。その配当金だけでも、銀行預金よりお得になる気がしませんか。

このような特徴を活かした投資を行うために、コア投資では定めたゴールに向かい、長期の安定運用で資産を増やすこと、ポートフォリオを組むことをお勧めしているのです。

コア投資でポートフォリオ運用をするには、投資家自身にも投資の知識、ルールを知っておく必要があります。そこで本書では、まず金融機関に相談する前に知ってきたい知識、そしてマネーリテラシーについてお話しした後、コア投資をベースとしたポートフォリオ運用の始め方をやさしく解説していきます。より身近に感じていた

だくため、ケーススタディも用意しました。投資の経験を問わず、わかりやすい解説を心掛けたので、読み終わったところには、自身が始めるべき運用が具体的に把握できているはずです。本書の巻末に、ご購入者様限定で読者特典も用意していますので、そちらもご活用ください。また、本書では投資ではなく、なるべく資産運用という言葉を用いて説明していきます。

何よりも、本書が資産運用に対する誤解を解き、みなさんの豊かな人生を実現する一助になれば幸いです。さっそく、ページをめくっていきましょう。

2021年7月

五十嵐修平

プロローグ

投資に成功する人・失敗する人がいるのはなぜ？……………002

投資はギャンブルではない……………010

投資がギャンブルになるのは「サテライト投資」……………016

50歳を超えたら「コア投資」がお勧め……………018

第1章

# 金融機関に相談する前に 知っておきたいこと

担当者が一生懸命に提案するのは、  
ノルマを達成するため……………030

こんな営業担当者には要注意！……………035

あなたの預貯金を狙う、金融機関の罠……………041

投資を始める前にマネーリテラシーを身につけよう……………058

コラム①

証券会社で働いて気付いたこと

# 資産運用で成功するための マネーリテラシー

豊かなセカンドライフには、一体いくら必要なのか？	066
日本と欧米の金融資産の推移	072
今から資産運用をしなければならぬ理由とは？	076
資産運用の基礎知識について学ぼう	087
代表的な運用対象① 株式とは？	095
代表的な運用対象② 債券とは？	099
代表的な運用対象③ 投資信託とは？	102
投資信託がお勧めの理由	105

一括投資と積立投資の使い分け	108
投資信託保有者の約半数が損失を抱えている理由	114

## コラム② 米国、英国視察での学び

# 50、60代にお勧めの 資産運用手法

コア投資の基本は「銘柄」「時間」「値動き」の分散	124
ゴールベース運用の考え方	146
「コア投資」のポートフォリオの基本的な考え方とは？	158

どのような投資信託を選べばいいのか？  
リバランスの重要性

コラム③ 投資教育について

165  
174  
178

## 第4章

# 投資に失敗しないための ケーススタディ

人は、合理的に行動できない？

184

ケース①今の生活水準を変えずに、

セカンドライフも充実させたい

192

ケース②夫から相続で得た資金で生活しながら、  
将来のリスクに備えたい

202

ケース③法人の使わない預貯金の活用方法について  
知りたい

210

ケース④セカンドライフのために、  
残りの働いている期間で資産をつくりたい

216

ケース⑤両親から受け継いだ9000万円の、  
相続財産を計画的に運用したい

223

パートナーの重要性

230

コラム④ コロナ禍に私たちはどのようなアドバイスをしたのか？

234

エピローグ

237